

第2期SIP海洋課題「革新的深海資源調査技術」概要

目指す姿

概要

現行のSIP「次世代海洋資源調査技術」における水深2,000m以浅の海底熱水鉱床を主な対象とした成果を活用し、これらの技術を段階的に（Step by Step）発展・応用させ、基礎・基盤研究から事業化・実用化までを見据え、**海洋資源開発への適用及び、2,000m以深での資源調査技術、生産技術の開発**を世界に先駆けて進める。

出口戦略

深海資源調査技術・生産技術の開発及び深海資源調査システムの実証により、これらを社会実装とともに、民間企業が主体となりSIP開発技術を用いて、国内外の海洋資源調査を受託。

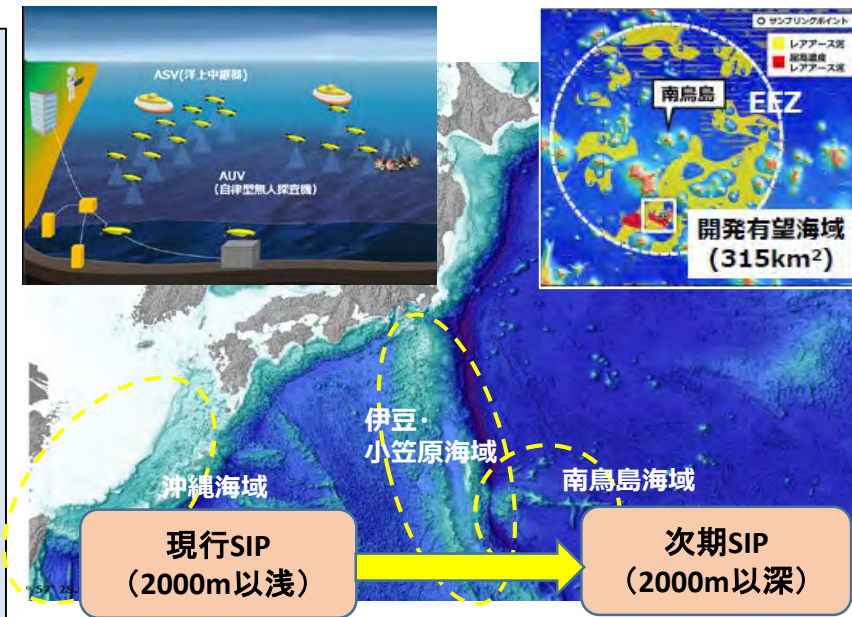
社会経済インパクト

- 我が国のEEZ等における**資源開発の促進**
- 安全保障の観点からも、**海洋権益の確保に貢献**
- **関連技術の他分野への応用**
(AUV機体制御技術、充電技術、水中通信技術、測位技術、群制御技術、揚泥・採泥技術等)

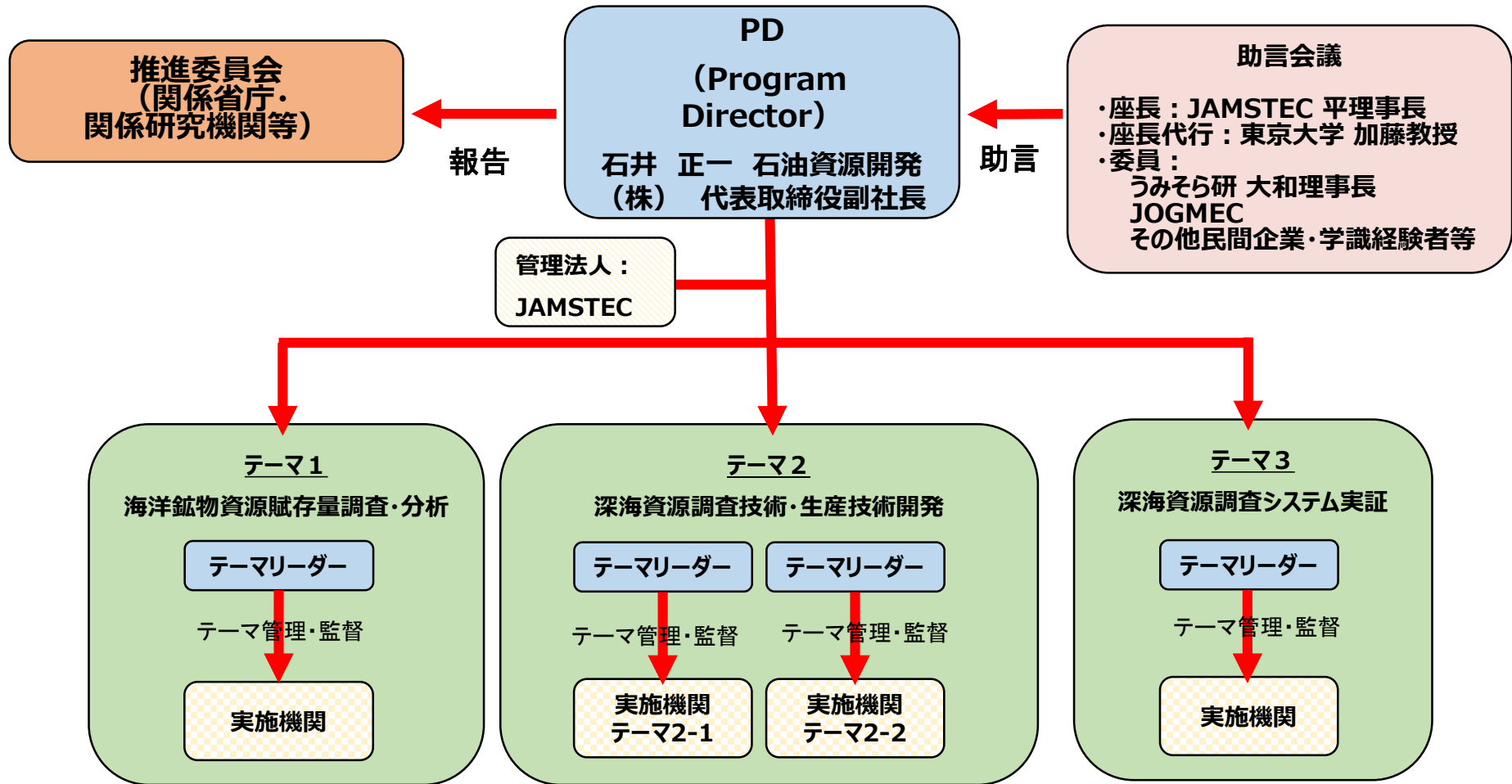
達成に向けて

研究開発内容

- **テーマ1：レアース泥を含む海洋鉱物資源の賦存量の調査・分析**
⇒海洋鉱物資源の**賦存量の調査・分析**により高濃度分布域における**開発ポテンシャルエリアの絞り込み**
- **テーマ2：水深2,000m以深の深海資源調査技術・生産技術の開発**
⇒2-(1)：**深海資源調査技術の開発**
(**深海AUV複数運用技術、深海底ターミナル技術**)
社会実装可能な深海資源調査システム構築のための技術開発
⇒2-(2)：**深海資源生産技術の開発**
(**レアース泥の採泥、揚泥に関する基礎研究**)
- **テーマ3：深海資源調査・開発システムの実証**
⇒テーマ2の成果に加えて**現行SIPの成果を活用し**、社会実装、資源調査、開発の促進を目指した深海資源調査システムの実証を実施



第2期 S I P 海洋の体制 (案)



● **PD**：ガバナンス強化の観点からプロジェクトの全体のマネジメントを責任をもって一元的に遂行する

● **助言会議**：技術的・学術的見地からプロジェクトに関する助言を行う

● **推進委員会 (関係省庁・関係研究機関等)**：PDとの円滑な連絡調整等を通じ、SIP海洋の効果的・着実な遂行の確保に努める

- ・リーダー：内閣府 (科技)
- ・サブリーダー：内閣府 (海洋)
- ・内閣府 (宇宙)、総務省、経済産業省、文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省、防衛省 (装備庁)
- ・JAMSTEC、JOGMEC、海上技術安全研究所 等